ミサゴ

Pandion haliaetus

タカ科・留鳥

ミサゴ

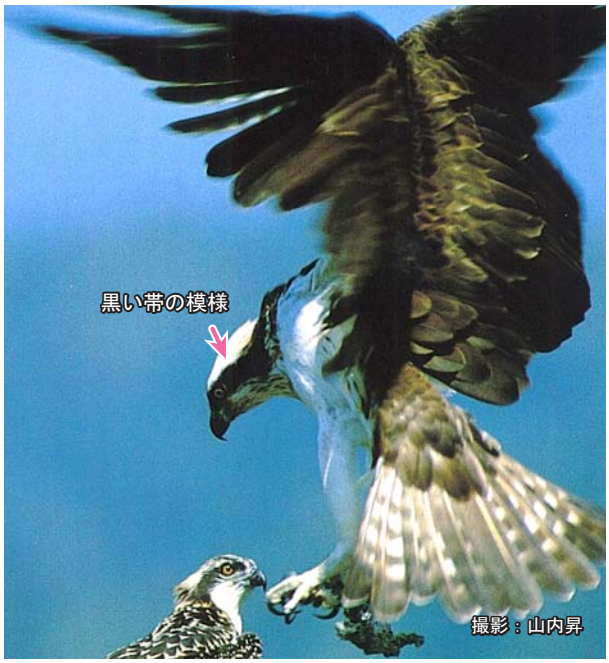
名前の由来
川や湖沼、海で、水に飛び込んで水中の魚をつかまえることから「水探（みさご）」と呼ばれ、奈良時代から「みさご」と呼ばれていたという。魚鷹（うおたか）とも呼ばれることがある。漢字名：魚鷹

特定種

国レッドリスト（2007）：準絶滅危惧（NT）
北海道レッドデータ：絶滅危急種（Vu）

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）オスは約56～60cm、メスは約57.5～62cm、翼を開いたときの端から端までの長さオスは約147～167cm、メスは約154～169cm。
大きさは、トビと同じくらいで、翼が細長い。背面は暗褐色で下面は腹部が白く、翼は白っぽく見えるが、逆さ八字型の黒っぽい模様がある。尾には黒っぽい横縞がある。頭部が特徴的で、白地の頭部に目から首の裏側にかけて太くて黒い帯がある。
声：なわばりから離れた場所ではあまり鳴かないが、繁殖期には巣の上空を飛びながら「ピョッピョッピョッ」と鳴き、警戒時には「キッ、キッ」と鳴くことがあるという。
飛び方：直線的にゆったりと飛び、滑空時には翼は水平で直線的に見えるが、ときどき「へ」の字形になることがあるため、カモメ類と間違えやすい。水中の魚を狙うときには、空中で羽ばたきながら一点に静止（ホバリング）し、ほぼ垂直に水面に飛び込む。
類似種と見分け方：カモメ類。
下面が白く、翼が他のタカよりも細長いため、飛んでいるとカモメ類に似ている。カモメ類とは、頭部の違いと飛び方の違いで見わける。ミサゴの頭部には目から首の裏側にかけて太くて黒い帯があるが、カモメにはない。飛び方は、羽ばたいていないときは、ミサゴの翼は水平で直線的に見えるのに対し、カモメ類は浅いM字のように見える。
他のタカ類とは、翼が細長い点、頭部の模様が異なる点で見わけられる。



ミサゴ。目から首の裏側にかけて、太くて黒い帯がある

生息環境・分布

海岸の崖の上や湖沼沿いの大木の上で繁殖し、魚を餌としているため、海や湖沼、河川周辺に棲んでいる。
分布：ユーラシア大陸中部、インド、アフリカ中部、北アメリカ北中部、南アメリカ北中部、オーストラリアなど。
国内では北海道から沖縄にかけて繁殖し、北日本で繁殖している個体は冬期に暖地に移動する。北海道では道内全域に生息している。夏鳥だが、冬期にも稀に観察されることがある。十勝地方では太平洋岸から足寄町、鹿追町、上士幌、新得町などの内陸地帯まで広範に確認されている。十勝川では下流から上流まで確認されている。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期					繁	殖						

食性・他生物との関わり

餌のほとんどが魚であり、天気が悪くて魚を捕りにくいときには弱った鳥類や両生類、爬虫類、甲殻類、甲虫などを捕ることもあるという。餌としている主な魚は、淡水魚（海から川に上ってくる魚を含む）ではサケ、マス、ボラ、コイ、フナ、などである。十勝川では、サケ、カラフトマス、アメマス、ニジマス、ウグイなどを捕食していると思われる。ヨーロッパのある調査では、ミサゴが捕まえた496尾の魚の大きさは7～57cmであったという。

巣は崖の上以外に大木の樹上にもつくり、巣の材料に木の枝を使い、巣の内側には草、苔、樹皮、海藻などが使われている。

繁殖生態

繁殖期は4～7月で年１回、一夫一妻で繁殖する。岩棚や大木の樹上に流木や枯れ枝を積み、直径約1.2～1.5mの皿型の巣を雌雄共同でつくる。同じつがいが同じ巣を修復しながら何年も利用することが多いという。哺乳類の捕食者がいない島では、地面に巣をつくることもあるとのことである。繁殖開始年齢は3～5歳。一腹産卵数は2～3個で、1～3日おきに1卵ずつ産卵。抱卵は雌雄交代で34～40日行うが、抱卵時間はメスの方が多いという。育雛日数は49～57日。メスは雛への給餌と巣の警護を主な仕事とし、オスは主に狩をして餌をメスに渡すとのことである。

魚を狙うとき、空中で羽ばたきながら静止し、水面に足から飛び込む。

木の上で捕まえた魚を食べるミサゴ

興味深い話

■足指の裏側には角質の刺があり、滑りやすい魚がうまくつかめるようになっている。一般的に鳥類の足指は、前３本、後１本だが、ミサゴは前２本、後２本であり、魚を４本の指で捕まえやすい構造になっている。ミサゴ以外ではフクロウ類が前２本、後２本の足指であり、ミサゴと同様に獲物をより捕まえやすい構造になっている。

■巣は代々使用される傾向があり、19世紀のスコットランドの21の巣で10年～92年、北アメリカで最高125年連続使用された記録があるという。

■ワシタカ類で水に潜ることができるのはミサゴだけであり、羽毛は防水性にすぐれている。

■背中にミサゴの白骨をつけた大きな魚がとれることがあり、これは、ミサゴが自分よりも強すぎる獲物を襲い、飛び立てずに、足指を抜くこともできなかった結果である。

配慮事項

河川は採餌の場所であり、採餌のためには7～57cmの魚類が生息していることが必要である。つまり、魚類の生息環境を保全することがミサゴの生息環境保全につながる。また、水の汚濁はミサゴの採餌を困難にするため、水の汚濁を防止することも重要である。営巣環境である崖地及び大木のある樹林帯の保全も必要である。

参考文献

「名前といわれ　日本の野鳥図鑑1　野山の鳥」国松俊英　偕成社　1995

「図説　日本鳥名由来辞典」柿澤亮三・菅原浩市　柏書房　1993

「改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物　レッドデータブック2　鳥類」環境省　2002

「北海道の希少野生生物　北海道レッドデータブック2001」北海道　2001

「図鑑　日本のワシタカ類」森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男　文一総合出版　1995

「検索入門　野鳥の図鑑　陸の鳥②」中村登流　保育社　1986

「原色日本野鳥生態図鑑＜陸鳥編＞」中村登流・中村雅彦　保育社　1995

「猛禽類　BIDS OF PREY」　Glenys & Derek Lloyd　訳：高野伸二　主婦と生活社　1973

「北海道鳥類目録　改訂2版」藤巻裕蔵　帯広畜産大学野生動物管理学研究室　2000

「北海道地域別鳥類リスト」（財）日本野鳥の会北海道ブロック支部連合協議会　野生生物情報センター　1991

「十勝と釧路の野鳥　十勝・釧路地方鳥類目録」日本野鳥の会十勝支部・釧路支部　1987

「大樹の鳥Ⅱ　北海道大樹町鳥類目録」飯嶋良朗　1998

「浦幌町鳥類目録」浦幌野鳥倶楽部　2000

「十勝野鳥だより1～153号」日本野鳥の会十勝支部

「北海道野鳥図鑑」河井大輔・川崎康弘・島田明英　亜璃西社　2003

Cramp, S. & K. E. L. Simmons (1977) Handbook of the Birds of Europe, the Middle East and North Africa. Vol. II . Oxford Univ. (eds.) Press, Oxford.

宮崎学（1977）　漁食の猛禽ミサゴ. アニマ, 50：53-59